

久保田 信¹・田名瀬英朋²・中坊徹次³：和歌山県田辺湾にホシフグが大量漂着（2例）Shin KUBOTA¹, Hidetomo TANASE² and Tetsuji NAKABO³ : Two cases of mass stranding of *Arothron firmamentum* (Temminck and Schlegel) on the beach of Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan

ホシフグ *Arothron firmamentum* (Temminck and Schlegel) は、南日本、東シナ海～南シナ海、オーストラリア、ニュージーランドなどに分布しており（山田 2000）、通常は100～400 mのやや深みに生息しているが、ときどき日本海沿岸で大量にとれることがある（松浦 1984, 1997）。しかし、本州太平洋沿岸で大量にとれた、という記録がない。最近、和歌山県西牟婁郡田辺湾にホシフグが大量に漂着した2例について調査する機会を得たので報告する。

1. 2003年10月30日、和歌山県田辺湾に面した京都大学瀬戸臨海実験所の約400 mの長さの“北浜”に本種の百数十個体の死亡漂着があった。“北浜”の約半分だけの区域（洞門から実験所船着場）に打ち上がった28個体を測定の結果、最小全長138 mm、最大全長244 mm、平均全長155 mmであった。なお、この日の前後の日には、それぞれ978個体と340個体もの大量のギンカクラゲが漂着したので、風波による吹き寄せが本種についても起こったのであろう。

2. 2007年11月16日、京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に本種が大量に死亡漂着し（紀伊民報 2007）、約400 mの長さの浜全体の満潮線付近に415個体が累々と打ち上がっていた（図1）。いずれも新鮮なもののばかりで、目玉を鳥類に食べられているものが多かった（図2）。白浜町の役場により“北浜”付近の全ての個体が回収されゴミ処理されたが、750 kgもの重量になるほど多かった（朝日新聞 2007）。66個体の全長を測定したところ、その幅は全長185-250 mm（200 mm未満の小型は8個体；200-224 mm 27個体；225-250 mm 31個体）、平均全長219 mmであった。なお、この日にはハリセンボン1個体も漂着したが、他の生物の大量漂着はなかった。

本種は全長が35 cmに達するので（落合 1986）、上記の2例とも未成熟個体ばかりであろう。なお、2011年1月30日から2月20日までの寒冷による大量死亡した魚類871個体中に、本種は1個体も含まれていなかった（久保田ほか 2011）。しかし、1998-2003年に実施した“北浜”での1000回以上の打上調査では、多数ではないが（1日1回の調査で各種が10個体を超えることはない）、本種も記録種リストに挙がっている（久保田ほか 2003）。また、本種は定置網で大量に漁獲されることがあるとされている（松浦 1997）が、太平洋沿岸とは書かれていない。今回の2例の大量漂着はホシフグの太平洋沿岸における生態の一端を示す貴重な記録であろう。



図1 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に2007年11月16日に大量に死亡漂着したホシフグ。

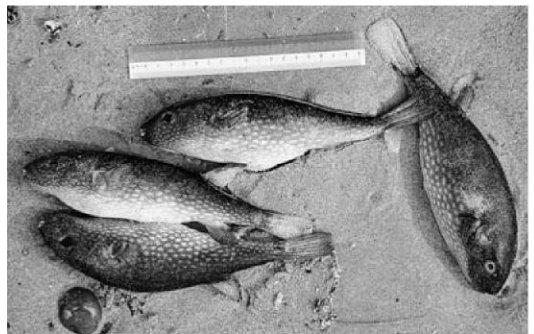


図2 目玉を食べられた漂着したホシフグ（2007年11月16日京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で撮影）。

引用文献

- 朝日新聞 2007. ホシフグの死骸大量に見つかる (2007年11月17日付記事)
- 紀伊民報 2007. フグ死骸数千匹漂着 (2007年11月17日付記事)
- 久保田 信・壺山嘉郎・田名瀬英朋. 2003. 番所崎, 特に“北浜”(和歌山県白浜町)へ打ち上げられた魚類. くろしお, (22): 31-33.
- 久保田 信・田名瀬英朋・武藤望生・東海林 明・木村一晶・中坊徹次 2011. 和歌山県田辺湾における2011年冬季の異例の数の凍死魚の漂着. 漂着物学会誌, 9: 13-16.
- 松浦啓一 1984. In 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編 日本産魚類大図鑑. ホシフグ p.350, pl.331. 東海大学出版会, 東京.
- 松浦啓一 1997. In 岡村 収・尼岡邦夫編. 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. ホシフグ P.706-707. 山と溪谷社, 東京.
- 落合 明 1986. In 阿部宗明編著. 決定版 生物大図鑑 魚類. ホシフグ P.335, 431pp. 世界文化社, 東京.
- 山田梅芳 2000. In 中坊徹次編. 日本産魚類検索全種の同定, 第二版. ホシフグ p.1427. 東海大学出版会, 東京.

(Received Sept. 5, 2012; accepted Sept. 25, 2012)

¹ 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

¹ Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama-cho 459, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan

² 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町676

² Shirahama-cho 676, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan

³ 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館

³ The Kyoto University Museum, Kyoto University, Kyoto 606-8501, Japan